

第 20 回東川賞審査講評

海外作家賞	アントワーヌ・ダガタ氏 (Antoine d'Agata)
国内作家賞	中川幸夫氏 (なかがわ・ゆきお)
新人作家賞	藤部明子氏 (とうぶ・あきこ)
特別作家賞	倉沢栄一氏 (くらさわ・えいいち)

東川町が 1985 年の 6 月にわが国で初めて写真による文化田園都市づくりを標榜し『写真の町』を宣言して、同年より毎年国際写真フェスティバル『フォトフェスタ』を開催するとともに、写真賞『東川賞』を制定し業績の優れた写真家、前途ある写真家の顕彰を始めてから 19 年が経過し、今年は栄えある 20 回目となった。その記念すべき東川賞 20 回目の選考会は、去る 2 月 12 日東京青山の「こどもの城」において、全審査委員出席のもと開催された。

本年度の東川賞海外作家賞の選考対象地域は写真発祥の国でもあるフランスで、同地域が選考の対象となるのは第 2 回であった 1986 年に南仏アルルの写真家ルシアン・クレルグ氏が選ばれて以来である。今回の選考については、昨年秋に審査委員会から山岸享子氏が渡仏し、パリを中心に直に現地で選考資料の収集調査に当たっていただいた。調査に際しては写真を専門とするギャラリーや若手評論家、さらに美術館キュレーターらの協力を得て、既存のメディアでは得難い最新の情報を入手されてきた。その結果、今日のフランスでの現代写真界の動向が現代美術との相互関係も手伝って、いく通りもの傾向を示していることが明確になり、なかでも現実社会と対峙し人間の性や本質を描き出そうとする傾向が、一つの奔流となっていることが見えてきた。そして選ばれたのがアントワーヌ・ダガタ氏である。1961 年にマルセイユで生まれたダガタ氏は、20 歳代からロンドン、中米、ニューヨークなど各地での生活を体験し、生々しく世界の流動感とその生気を受け止めてきた。今回の授賞対象作は『INSOMNIA (インソムニア/不眠症)』と題された写真集で、作者自身の写真日記的な展開により綴られた、無国籍、無秩序な夜の世界で繰り広げられる濃密で緊張感ある妖しい営みを介して、人間の欲望の正体を見極めようとする作品である。なお、他の候補としてはソフィー・リストゥルウーバー、ステファン・クーテュリエ、バレリー・ベランなど人気実力をともに有する対抗馬が挙げられたが、日本を代表する写真家・森山大道氏の営為とも通底するような、ダガタ氏の類まれな動的表現力が最終的に審査委員の支持を集めた。

今回の東川賞国内作家賞は、大方の驚きを持って受け止められるであろう。それは受賞者が通常概念では写真家という立場で認識されることがまず皆無だからである。その受賞者とは世界的に著名な日本が誇るいけばな作家の中川幸夫氏である。

中川氏の授賞対象となった作品とは、2002 年刊行の自選作品集『魔の山』(求龍堂刊) である。同作品集に掲載の生け花作品が全て中川幸夫氏自身の創作であるのは当然だが、その作品撮影のほとんどが作家自らの手によるものなのである。じつは中川幸夫氏は土門拳の助手を務めていた時代もあり、写真撮影の技術的な面に関して完璧な技量を持っており、つとに自作は自ら写真撮影をされていた。そしてその撮影こそが氏の創造活動のひとつの帰結点ともなっている。審査委員のひとり杉浦康平氏によると「生け花の概念を自分の写真で 180 度ひっくり返している」と評されるほど、積極的に自らに介入する写真行為

を実践しているアーティストなのである。審査会での討議の論点は、自らの作品しか撮らないといった点などにも及んだが、自らが状況を創り出し、その自らを撮影する、たとえば森村泰昌氏（第18回東川賞国内作家賞受賞者）らとも共通する制作姿勢と考え得ること、撮影ジャンルの特定が写真の創造性を制限するものではないことなど、写真賞を中川氏に贈ることに違和感がないことを確認し、授賞を決定した。写真という手段のクリエイティブな可能性を再認識させられる審査結果だったといえるであろう。

新人作家賞は、文字通りの新人、藤部明子氏に決定した。藤部明子氏は1967年兵庫県生まれ、大阪のIMI（インター・メディウム研究所）で写真を学び、その後、師でもある畠山直哉氏（第16回東川賞国内作家賞受賞者）の仕事を手伝うなどしながら制作をつづけ、現在に至っている。授賞対象となったのは2003年に東京京橋のツァイト・フォトサロンで開催し、また同時期に上梓した写真集『The Hotel Upstairs / ホテル・アップステアーズ（上階のホテル）』（ステュディオ・パラボリカ刊）と題された作品である。この作品は藤部氏がアメリカ西海岸のサンフランシスコに現存する古びたホテル住人に密着取材した、いわばドキュメンタリー・ワークで、ホテルといっても、極めて長期の滞在者を対象とした、いわばアパートである。そこに暮らす人々の個別な人格の尊厳と孤独と、そして妙に温かみのある人間的触れ合いを写真とテキストで表現した、藤部氏にとってのデビュー作だった。審査会では柔軟なまなざしや軽快なカラー表現、そして映像と調和したテキスト力などが評価され、群を抜いて好評を博した。

北海道関連の写真家を対象とした特別賞の今年の受賞者は、優れた海洋生態写真600点を収録し、20年の歳月の集大成ともいえる『日本の海大百科』（TBSブリタニカ刊）を2001年に著し、えりも町を拠点として日本の海のすばらしさを世界に紹介すべく活動を続けている倉沢栄一氏に贈呈する。倉沢氏は、1961年東京生まれで、大学では農獣医学部の水産科に学び、ダイビング雑誌の編集者を経て独立。その時期に北海道襟裳岬に居を移し、以来水棲生物の生態を中心に写真活動を続け、クラゲの撮影では国際的に知られるなど、海外メディアにも活躍の場を拡張している。クラゲ以外にも、アザラシやマナティ、ジュゴンなどの海獣のスペシャリストであり、動物生態学への寄与のみならず、海をめぐるロマンティックな夢をつむぐ作品を届けてくれる写真家である。

今年は第20回目であり、特色のある受賞者を敢えて選出しようなどといった計算があったわけではないが、じつに幅広く写真という創造の現場を見直す審査結果となった。最後になったが、全国のノミネーターの皆様や資料提供をいただいた関係各位には謹んで謝意を表したい。

東川賞審査会幹事委員 平木 収

第 20 回東川賞 《海外作家賞》 "The Overseas Photographer Award"

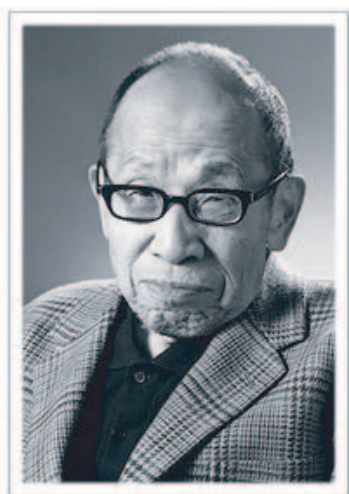


写真集「インソムニア（不眠症）」より：from the series "INSOMNIA"

アントワーヌ・ダガタ (Antoine d'Agata)

フランス パリ市在住

第 20 回東川賞 《国内作家賞》 "The Domestic Photographer Award"



中川 幸夫

香川県丸亀市在住

魔の山 / A Flower is Mystic Mountain

第 20 回東川賞 《新人作家賞》 "The New Photographer Award"



藤部 明子
東京都中野区在住



写真集「The Hotel Upstairs / ホテル・アップステアーズ」
"455号室 ゲイエ・ジェンキンス" 編より

第 20 回東川賞 《特別作家賞》 "The Special Award"



倉沢 栄一
北海道えりも町在住



マングローブの群落。